

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

2023年10月8日（日）

主 題：「不信仰を避けなさい」

一心の開眼一

テキスト：ユダの手紙1章1～7節

**はじめに**

・おはようございます。

1) 今日から「ユダの手紙」に入ります。短い手紙で1章、しかも25節です。著者はユダです。はじめに、ヤコブの兄弟ユダと記されていますが、どのヤコブであるかについては、いろいろな説がありますが、それは横に置きます。

ユダという名前は「主をほめ称えよう」という意味です。

・そして、この書簡の受取人が誰であるかも記されていません。文脈から考えるならば、おそらくユダヤ人キリスト者であろうと思います。そしてユダがなぜこの手紙を書いたか、その執筆理由は2節に記されています。

1:3 愛する者たち。私たちがともにあずかっている救いについて、私はあなたがたに手紙を書こうと心から願っていましたが、聖徒たちにひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、あなたがたに勧める手紙を書く必要が生じました。

2) ところで、その執筆理由を知るために、私たちは当時のローマ社会の時代背景を知る必要があります。

・ユダがこの手紙を書いたのは、だいたい1世紀末から2世紀初頭とされます。当時のローマ帝国は全盛時代に入っていました。「ローマ式平和」と言われた時代でした。政治、経済、文化、宗教などのすべてが充実していました。しかし、同時に「真の信仰」が無い時代でもありました。

・ですから、クリスチャンにとっては厳しい時代でした。繁栄の中で、人々は世のことだけに興味を持ち、人間中心で、自分の好きなように生きていたのです。社会が豊かになり、人々が富に固執して、その欲望を満足させようとする社会には、さまざまな誘惑があります。往々にして、性道徳も乱れてしまいます。

・このような中であって、クリスチャンも又、世俗中心の風潮に流される危険性がありました。ですから、ユダは手紙を書いて「物欲と不道徳」、この二つについて注意するように勧めたのでした。ました。

・当時のローマ帝国は、現代社会の有り様によく似ていました。

現代の日本のTV、雑誌、DVD等のメディアには、俗悪な内容が多く氾濫しています。人々の心を汚し、不義、不道徳に対して罪悪感を抱かなくさせてしまいます。多くの人々は、神を知りませんし、神を恐れる心もありません。この世をいかに生きるか、どのように楽しんで生きるかが、人々の最大の関心事になっています。

- 3) ですから、ユダの手紙は、このような現代社会、国家、世界に対しても貴重な警鐘を鳴らしてくれています。 約2千年前の「ユダの手紙」は、現代の私たちに重要な語りかけをしています。それは聖書は、神の書であるからです。

### 大切なポイント

#### 1. キリスト者の幸いな身分

1:1 イエス・キリストのしもべ、ヤコブの兄弟ユダから、父なる神にあって愛され、イエス・キリストによって守られている、召された方々へ。

- ・申し上げたように、信仰を破壊しようとする暗闇の力は、神を信じるキリスト者と、イエス・キリストの教会へ向かい押し寄せてきます。信仰を破滅に至らせる肉欲主義が、それです。それに対して、勝つことができる人は誰もいません。それほど、悪の力は強いものです。
- ・そこで著者ユダは、キリスト者の幸いな身分について記しました。神に愛され、イエス・キリストに守られているのが、キリスト者の立場であると記しました。何と幸いな身分ではありませんか。私たちは創造神から愛され、守られている存在です。すなわち、私たちは神の子であり、その存在は神に召され神の招きに根源があることを、しっかりと覚えることは大切です。
- ・自分は神に愛された存在であるという認識を持たない者は、平安と愛のうちを歩むことが難しいものです。自分は神に愛されているという意識 (or 確信) は、キリスト者の信仰生活の始まりであります。
- ・『例 話』  
最近、幼児虐待という言葉を聞きます。幼い子どもが、親の愛を受けることなく、親のわがまま (肉欲) で、真冬に冷水シャワーをかけられ屋外に放り出され、死亡したケースがありました、大変、心が痛みました。
- ・その親は幼児虐待の罪で警察に逮捕され、取り調べ段階で明らかになったことは、その親も親から虐待を受けていたことでした。たいへん、心が痛みます。  
それが生ける真の神を知らない (無知) 者の姿です。

- ・著者ユダは、神を信じる者が神に愛された存在であることを手紙の冒頭で記しています。そしてさらに、こう述べました。

1:2 あわれみと平安と愛が、あなたがたにますます豊かに与えられますように。

- ・私たちには、神のあわれみと平安（シャローム）、そして愛が与えられています。神に愛された者が、人を正しく愛せるようになります。それは私たちの力ではなく、内住くださる聖霊の力によるものです。
- ・ですから、私たちは悪の誘惑の力に負けるのではなく、神にあって立派に立つことができます。それは神が願うことであり、喜ばれることでもあります。
- ・では、私たちはどう生きれば良いでしょうか。ユダは次のように勧めています。

## 2. 不信仰を避けなさい

### 1) 信仰のために戦いなさい

1:3 愛する者たち。私たちがともにあずかっている救いについて、私はあなたがたに手紙を書こうと心から願っていましたが、聖徒たちにひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、あなたがたに勧める手紙を書く必要が生じました。

- ・ユダは信仰のために戦いなさい、と言いました。誰でも争いは、したくありません。できれば避けたいものですね。しかし聖書は「信仰のために戦いなさい」と言います。なぜでしょうか。

① 戦いは一人の戦いではありません。主の戦いです。主が戦ってくださいます。世界の造り主であるお方が、私にあって、私とともに戦ってくださいます。それは（戦いの中で）、主を知るためでもあります。

② 信仰の戦いは、結果的には、主にあって成長させられるものです。神は信仰の戦いにおいて、私たちを訓練し、私たちを神の子にふさわしい、者に育ててくださいます。神は戦いの勝利者ですから、私たちに勝利は約束されています。

- ・では、信仰のために戦う際、何が必要でしょうか。

⇒ 神への全き信頼

神はみことばを通してお語りくださり、聖霊なるお方が「もう一人の助け主」としてご介入くださいます。そこで私たちは神を経験することができます。

### 2) 恵みを放縦に

1:4 それは、ある者たちが忍び込んできたからです。彼らは不敬虔な者たちで、私たちの神の恵みを放縦に変え、唯一の支配者であり私たちの主であるイ

イエス・キリストを否定しているので、以下のようなさばきにあうと昔から記されています

- ここに、戦う相手（敵）について記されています。敵は、イエス・キリストを否定するものです。彼らは、忍び込んでくる不敬虔なもので、神の恵みを放縦に変えてしまう悪です。そのものは、必ずさばきにあうと記されています。
- 当時、異端として勢力を誇っていたのは「グノーシス主義」でした。彼らは、「善であるのは精神だけで、物質は本質的に悪である。したがって肉体は本質的に悪である。だから人間は肉体において、何をしててもかまわない。人は好きなことを、好きなだけすれば良い。」という主張でした。
- 神の恵みは曲解され、公然と罪を行う口実が作られていました。それゆえ、彼らはイエス・キリストを否定する人たちとなったのです。彼らは口先ではキリストを信じると言いながら、その生活態度はキリストに支配されることを拒否し、主に仕えようとしませんでした。
- そこで、著者ユダは思い起こしなさいと言いました。

### 3) 思い起こしなさい

- ① 1:5 あなたがたはすべてのことをよく知っていますが、思い起こしてほしいのです。イエスは民をエジプトの地から救い出しましたが、その後、信じなかった者たちを滅ぼされました。
  - イスラエルの民は、かつて荒野において不信仰のゆえに滅びました。彼らはエジプトで奴隷の身分から奇跡の力によって解放されました。それにも関わらず、荒野で不信仰に陥り、神に背を向けてしまいました。そして神に対する信仰を失ってしまい、ついに神の怒りによって滅ぼされてしまいました。
  - 神は御自身に不従順な者を、厳しく裁かれる方であることを忘れてはいけません。
- ② 1:6 またイエスは、自分の領分を守らずに自分のいるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、永遠の鎖につないで暗闇の下に閉じ込められました。
  - 第二は、墮落した御使へのさばきです。御使は天の光の中で自由な生活を送り、大いなる地位を持っていました。その御使でさえ、自らの傲慢のゆえに墮落してしまいました。その結果、永遠の鎖につないで暗闇の下に閉じ込められました。
  - これは肉欲に走り。神の恵みを曲解して、自分の不道德の口実になっている偽教師への警告でした。

③ 1:7 その御使いたちと同じように、ソドムやゴモラ、および周辺の町々も、淫行にふけて不自然な肉欲を追い求めたため、永遠の火の刑罰を受けて見せしめにされています。

- 第三の例は、ソドムとゴモラの滅亡です。ソドムとゴモラは、道徳的に非常に腐敗し、滅ぼされてしまいました。神の怒りの刑罰は、人間の罪のゆえに下った実例でした。神のさばきは墮落した天使たちだけではありません。不義を愛する全ての者に及びます。

### ま と め

主 題：「不信仰を避けなさい」

一心の開眼一

- 私たちの主は今朝もお語りくださいました。  
初代教会時代、グノーシス主義をはじめとする様々な異端が猛威をふるって  
いました。
- 神の御子の尊い御血が流され、神の救いにあずかり、神に愛された聖徒たちが  
大きな誘惑に合っていました。そして信仰から外れてしまう聖徒が現れてい  
ました。ユダはそのことを非常に心痛めました。
- ユダは「不信仰を避けなさい」と手紙を書き送りました。  
それは私たちにも語れているメッセージです。  
では、私たちはどう生きれば良いのでしょうか？ み言葉はつぎのように勧め  
ています。 [ヘブル人への手紙12章](#)  
12:2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。

\*God bless you !